

マツの美林を次世代に

抵抗性アカマツを植樹

市と県緑化推進委員会一関支部は5月22日、涌津の悪法師堤周辺の市有林に、松くい虫に強いアカマツの苗木70本を東北各県に先がけて植樹しました。アカマツと堤が美しい景観を作り出している同地域のアカマツ林を後世に残そうと行われたものです。

この日植えたのは、県林業技術センターが20年かけて育種に成功した松くい虫抵抗性品種。平均生存率が54%と、従来の県産アカマツに比べ1.7倍の抵抗力を持っています。県・市職員、涌津地区の緑化推進委員など約30人の参加者は、トウグワで穴を掘り、30センチほどに育った苗木を1本1本丁寧に植樹しました。



悪法師堤周辺のマツ林にアカマツを植える関係者

はつらっプレーで交流

車椅子ゲートボール大会

今回で16回目を迎える市長杯争奪車椅子ゲートボール大会は5月12日、市総合体育館を会場に催されました。当日は福島県を除く東北各地から12チーム71人の選手が参加。例年参加している選手も多く、久しぶりの対戦を喜び合う姿も見られました。

試合では、見事なスティックさばきでスムーズにゲートを通するプレーに場内から拍手が起きました。市内からは一関ワークキャンパスチームが出場。息の合ったチームプレーで昨年に続いて3位に入賞する活躍を見せました。



第1ゲート通過に神経を集中させる選手



写真を見ながらホタルの生態を学ぶ子どもたち

今年の夏も会えるかな

「ほたる探偵団」結団式

子どもたちに環境保全や自然保護の大切さを伝えようと、砂鉄川交流実行委員会(齋藤一公会長)による「ほたる探偵団2007」は5月20日、川崎防災センターを会場に活動を開始しました。小学生など27人が入団し、団員証が交付された後、藤元淳さん(市文化財調査委員)と島山昭さん(前あいぼと副館長)を講師に、ホタルの種類や生息環境などについて興味深く学びました。

門崎地内ではゲンジボタルが乱舞する幻想的な光景が3年ほど前から観察されています。同団は、市の地域おこし事業の助成を受け、7月上旬まで現地調査や観察会を行います。



「千厩っていいよね!」と題し講演する柴さん

企業も地域に貢献

まちづくり講演会を開催

千厩町まちづくり団体連合会(菅原一郎会長)主催のまちづくり講演会は6月8日、地元企業のソニーイーエムシーエス(株)千厩テックの柴登英雄テックプレジデントを講師に招き開催。市民ら約50人が聴講しました。

柴さんは地域社会の発展に向けた企業貢献について「千厩っていいよね!」と題し講演。地域経済の活性化、まちづくりに企業が果たす役割について、同社の取り組みと経営理念を披露し、参加者は熱心に耳を傾けていました。千厩テックは「モノづくり」トップ企業として実力を高め、また、地域との融和活動を積極的に行っていることが評価され、昨年度「岩手県経営品質賞」を受賞しました。



夏を先取りして、気持ちよさそうな子どもたち

色鮮やかに咲き誇る

室根山つつじまつり

室根山つつじまつりは5月26日から6月10日まで催され、蟻塚公園から山頂一帯に鮮やかに咲き誇る約20万本の「ヤマツツジ」や「レンゲツツジ」の群落が見事に咲き誇っていました。花がまばらだった昨年に比べ、今年は花芽の数も多く大勢の来訪者でにぎわいました。

期間中行われた室根山スカイスポーツ大会では、全国各地からパラグライダー愛好者約50人が集まり、技術を競い合いながら、初夏の風に乗って悠々と大空を飛んでいました。また、むろね南流太鼓による創作太鼓演奏やテント市、もちつき大会、つつじまつり物産展なども併せて行われ、来訪者をもてなしました。



鮮やかに咲き誇るツツジ群落とスカイスポーツ大会

まちのトピックス

地域で開催されたイベントや身近なできごとを紹介します

in Ichinoseki

はじける笑顔と水しぶき

B & G 海洋センターオープン

東山B & G 海洋センターは6月16日オープンし、この日を待ちに待っていた子どもたちが初泳ぎを楽しみました。当日はプールが無料で開放されたこともあり、多くの子どもたちが元気に水しぶきをあげ、歓声が響きわたりました。

栃澤優成君(長坂小2年)は「気持ちいい! 100メートル泳げるようになりたい」と元気いっぱい話してくれました。

海洋センターは9月2日まで営業しています。プールで夏を満喫してみませんか。



新やまぶき荘の完成を祝って行われたテープカット

高齢者福祉の充実を願う

「やまぶき荘」が新築移設

既存施設の老朽化により移転・新築した特別養護老人ホーム「やまぶき荘」の完成落成式は5月22日、大原字有南田地内で行われ、関係者ら約120人がテープカットなどで施設の完成を祝いました。

施設は鉄骨・木造併用の平屋建てで、延べ床面積約4300平方メートル。入居者の部屋は全室個室で、食堂や浴槽は共同利用。ホールには喫茶店を配置し、利用者や家族らの憩いの場としました。入居定員は70人、ショートステイは10人が利用可能です。施設を運営する社会福祉法人室達会の本多能久理事長は「安心な暮らしが実感できる施設づくりを進めたい」と話していました。